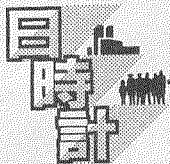


大阪市近郊にある動物病院の前に、マルチーズが捨てられていた。年に五、六回はドッグショーにも出た血統書付き。飼い主がバブル景気に踊っていた

た時は、ステーキを食べ、週一回は美容院に通い、病院で耳や目の手入れをしてもらっていた。カットが一回六千円、目の



金が入るから、手術はしないで」と頼む。犬に向かって「ごめんね、ごめんね」と繰り返す。命にかかわるかもしれないと聞くと、涙をこぼしていたという。

別の病院には「倒産して引っ越しするから」と、小型犬の引き取り手を探してくれるよう飼い主から依頼があった。ヘルニアにかかったダックスフントが待合室に置き去りにされた病院もある。守口市にある病院は、ここ一、二年で来診数が三割ほど減った。検査を受けず、薬だけ取りに来る人も急が増えた、という。

家族の一員。お金はいくらかかって構わない」と話していた。けれど、飼い主の家業が倒産し、境遇は一変した。捨てられてから数日後、飼い主から「あの犬、元気ですか」という電話があったが、以後連絡はない。新しい

飼い主を病院が探した。別の小型犬は、ちみのたまる病

手術すると七、八万円かかるけど、薬だけの治療なら一週間から十日で千数百円。手術を勧める院長の話を聞きながら、飼い主は、一お

長引く不況が、ペットの身の上

(檀)

不況風は。ペットにも冷たく